（別紙様式4）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月31日
（前回公表年月日：令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校 中央情報大学校	平成3年12月9日	中島慎太郎	〒370-0841 群馬県高崎市栄町13-1 （電話）027-324-8511
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人 有坂中央学園	平成3年12月9日	理事長 中島慎太郎	〒370-0841 群馬県高崎市栄町13-1 （電話）027-324-8511

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	クリエイティブデザイン学科	令和元年度文部 科学省認定	－

学科の目的	商品パッケージ、印刷、出版(電子書籍含)、映像、Webなど幅広くデザイン分野等で活躍できる人材を育成する。様々なデジタルデバイスに対応したデザイン技術や映像処理ができる技術を身につけ、実学を通して実践能力を身につける。
認定年月日	令和3年3月25日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	1860時間	1200時間	240時間	1770時間	90時間	0時間
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人	59人	0人	3人	8人	11人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 期末における筆記試験を実施すると共に授業出席率、受講態度及び課題提出物等を総合的に判断し、評価する。
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏　季：8月1日～9月1日 ■冬　季：12月22日～1月4日 ■春　季：3月8日～4月12日 ■学 年 末：3月31日	卒業・進級条件	所定の修業年限以上在学し、課程を修了したもの
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 担任や職員が面談を行い指導する	課外活動	■課外活動の種類 部活動、ボランティア活動、各実行委員（学園祭、スポーツ大会、謝恩会、卒業アルバム） ■サークル活動：　有

就職等の状況※2

■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生）
印刷、広告、映像、製造業界

■就職指導内容
担任と就職指導センター職員による面接指導や履歴書の書き方指導を実施。就職相談、カウンセリングなどの個別相談にも対応している

■卒業者数	：	24	人
■就職希望者数	：	24	人
■就職者数	：	24	人
■就職率	：	100	%
■卒業者に占める就職者の割合	：	100	%

■その他

（令和　4 年度卒業者に関する
令和5年5月1日 時点の情報）

主な学修成果（資格・検定等）※3

■国家資格・検定/その他・民間検定等
（令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
色彩検定3級	③	24人	21人
Illustrator検定エキスパート	③	22人	18人
Photoshop検定エキスパート	③	6人	6人

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄
（例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
・群馬eスポーツアワードロゴマーク　採用
・Rethink クリエイティブアワード 入選
・産学連携 群馬電工(株) キャラクターデザイン採用

中途退学の現状

■中途退学者　0 名　　■中退率　0.0 %
令和4年4月1日時点において、在学者58名（令和4年4月1日入学者を含む）
令和5年3月31日時点において、在学者58名（令和5年3月31日卒業者を含む）
■中途退学の主な理由
進路変更

■中退防止・中退者支援のための取組
教職員によるチーム指導

経済的支援制度

■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有
※有の場合、制度内容を記入
有坂奨学金制度：社会人入試で受験した学生を対象に、資格取得や専門知識・技術を習得し、新たな目標の実現を考えている者に対して、学園が年間10万円の奨学金を支給する制度

■専門実践教育訓練給付：　給付対象
※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
給付実績なし

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　有
※有の場合、例えば以下について任意記載
（評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）
JAMOTEC、2016年2月29日、http://ww.jamotec.co.jp/cert/CertificatedLSP.html

当該学科のホームページURL	http://www.chuo.ac.jp/cid

（留意事項）
1．公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3．主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本学科は職業実践の推進を図ることを目的に、専門学校中央情報大学校と企業等が有する知識・技術・技能を統合し、産学の連携を推進する事により、人材の専門性を向上させ、地域の産業振興や社会貢献を図り、実務実践能力の育成に資することを目的とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は学校長の統括のもとに、カリキュラム委員会の下部に属し、本校の教育体制及び教育制度の改善・整備に関する実現方策等の検討を行い、取りまとめると共に、次に掲げる事項について審議及び連絡調整を行う。
（1）授業科目の開設に関する事項
（2）授業内容に関する事項
（3）授業方法の改善・工夫に関する事項
（4）教員の実務研修に関する事項
（5）学校関係者評価に関する事項
（6）その他学科及び専門学校の教育に関する事項

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
大島　義典	公益社団法人 日本インダストリアルデザイナー協会	令和 5年4月1日～ 令和 6年3月31日	①
武井　正之	TAKEI DESIGN		③
富沢　充芳	朝日印刷工業株式会社		③
中島　慎太郎	中央情報大学校		
村椿　仁	中央情報大学校		
柴田　智宏	中央情報大学校		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回

（開催日時）
令和5年度　第1回　令和 5年9月14日　13:30～15:30 開催予定
令和5年度　第2回　令和 6年3月26日　13:30～15:30 開催予定

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。（R5/3 意見含む）

・ドリームウェーバー、HTML、CSS、WordPress等、Webに関わる技術が確実に求められているので、そこへの対策はした方がいい。
→カリキュラムでWeb系科目を設定し、指導できる体制は整えている。デザイナーには必須のスキルになるので、
なるべく多くの学生が身につけられるよう指導を徹底していきたい。
・Adobe XdはWebのビジュアルデザインを検討、提案するのに向いている。学生がWebデザインを理解するのには最適だと思う。
→便利なソフトなので、授業に取り入れられるか検討したい。
・現状の仕事の半分が自動化により消失する可能性がある。他者との優位性を保つためには「企画力・提案力」を身につけることが不可欠。
→技術面については各授業の中で指導していますが、それ以外の部分はゼミやイベントの中で身につけられるよう指導している。
担任だけではなく、教務全体でフォローできるよう情報共有を図っていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

デザイン分野においては、対応メディアの広がりと共に、それぞれで求められる技術が異なる。各専攻、各メディアに応じたデザイン技術の習得にあたり、就職した際に速やかな業務対応ができる技術を習得することを基本方針とする。連携企業においては、本業の業務と基本方針に応じた技術が一致し、講師派遣が可能な企業と協定を締結し、実施するものである。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

企業と協定を結び、シラバス（講義概要　目的・指導方法・評価方法）に学習内容を掲載し、指導内容を明確にしたうえで授業を行う。学生の理解度を把握するために、随時アンケート・テストを実施する。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
商業デザインⅠ・Ⅱ	実際のデザイン業界で活動している講師とともに、商業デザインを体系的に学ぶ。	3DESIGN

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

実務に関する知識・技術・技能の向上と指導力の向上を目指した研修を実施する。また、階層別研修やOJTによる組織的な人材育成の取組を支援するとともに、教員の学ぶ意欲や向上心を喚起する魅力ある研修を実施し、職員の自己啓発意欲を高める。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「　インフルエンサーマーケティング　」（主催：株式会社フェローズ）
期間：令和4年8月23日　対象：クリエイティブデザイン学科職員１名
講師：LINE株式会社　元代表取締役社長　森川亮氏
内容：インフルエンサーによるマーケティング手法について。最新のSNSマーケティングをはじめ、特にインフルエンサーマーケティングの事例などを、中心に学ぶ。

研修名「　星野リゾートの組織力　」（主催：株式会社リーガルフォース）
期間：令和4年11月8日　対象：クリエイティブデザイン学科職員１名
講師：星野リゾート代表　星野　佳路 氏
内容：星野リゾートがコロナ禍において実施した、HPやSNSにおける動画を使ったブランディング手法を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名「「数理・データサイエンス・AIの基礎とビジネスへの活用　（主催：校内にて実施）
　期間：令和4年8月18日　対象：職員全体
　講師：株式会社 データサイエンス研究所　代表取締役 伊藤 嘉朗　氏
　内容：データサイエンスの基本的な考えとビジネスへの転用方法について、データサイエンスの概要を学ぶ。

・研修名「ハラスメント対策とコンプライアンス意識の向上」（主催：校内にて実施）
　期間：令和5年3月22日　対象：職員全体
　内容：ハラスメントを含めたコンプライアンス違反などについて学ぶ。「どのような事例がコンプライアンス違反となるのか」等を知ることで正しい組織の在り方を実現し、基本となる共通ルールを理解することを目的とする。

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

関連分野のショー見学、出展、セミナーへの参加を計画

②指導力の修得・向上のための研修等

新入職員フォローアップ研修、模擬授業、職員研修を計画

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

自己評価を行い、その結果の公表・説明を保護者や業界関係者等に行うことで、適切に説明責任を果たす。保護者や地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	専門分野の特性、学校の理念、目的、育成人材像、将来構想
(2)学校運営	目的に沿った運営方針、事業計画、規定、コンプライアンス、情報公開
(3)教育活動	教育課程の編成・実施方針、工夫、開発、外部評価、判定基準
(4)学修成果	進学率、就職率、資格取得率向上、退学率低減
(5)学生支援	経済支援体制、健康管理、生活環境支援、卒業生支援、職業教育取
(6)教育環境	施設設備の整備、教育体制の整備、防災体制の整備
(7)学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の伝達
(8)財務	財政基盤、予算収支計画、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	設置基準の遵守、適正な運営、問題点の改善、自己評価公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献活動、ボランティア活動、公開講座、教育訓練
(11)国際交流	留学生の受入・派遣、国内外での評価

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・社会のニーズとして捉え、新たな知識・技術を提供する機会を拡充すると共に、学生個々の能力に応じた個別指導や効率的な補習などの実施に活用している
・学園祭や卒業制作展において作品を展示するだけでなく、それを作るまでの課程や意図など見る人に伝えることが必要
→今年の学園祭から、作品＋課程がわかるような展示を検討したい。
・就職活動においてインターンシップを活用すると、就職後のアンマッチを防げるので利用した方がいい。
→1年生は夏休みにオンラインの1DAYなどに参加するよう学生に指導したい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
新井　照秋	日本パスコム株式会社	令和 5年4月1日～ 令和 6年3月31日	企業等委員
三谷　徹男	株式会社CRI中央総研		企業等委員
小池　正律	中央キャリアネット株式会社		企業等委員
松本　州史	東京理器株式会社		企業等委員
池田　裕樹	中央情報大学校　卒業生		卒業生
剣持　美香	中央情報大学校　保護者		PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　))

学校関係者評価委員会実施後、1ヵ月以内を目途にホームページにて公開
http://www.chuo.ac.jp/cid/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本学は，情報公開等の推進を進め，国民や社会に対する説明責任を重視した，社会に開かれた専門学校を目指しています。そのため，教育・研究，組織・運営，人事，財務など本学の諸活動全般に関する情報を，社会に対し積極的に提供します。情報の提供は，本学ホームページへの掲載及びその他冊子などの発行、閲覧の申し出により行います。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材育成の目標、指導計画、経営方針
(2)各学科等の教育	入学者数、収容定員、在学生数、カリキュラム、進級・卒業要件
(3)教職員	教職員数、組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組、実習実技等の取組、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	中途退学、心身の健康、留学生支援、障害者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額、納入時期、経済的支援措置
(8)学校の財務	事業報告、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価、改善方策
(10)国際連携の状況	留学生の受入、外国の学校との交流
(11)その他	厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
http://www.chuo.ac.jp/cid/

授業科目等の概要

（工業専門課程　クリエイティブデザイン学科）令和５年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	華道茶道	華道・茶道の実習を通して日本の文化に触れ、心にゆとりのある学生生活を送っていただくための講座である。	1・2	30	1	△		○	○			○	
		○	英会話	この科目では、さまざまな状況を想定した場面で、英会話によるコミュニケーションが取れるよう、応用の利く英語表現を身に付けます。	1・2	30	1	○			○			○	
		○	社会人常識マナー	『社会常識』『コミュニケーション』『ビジネスマナー』を学び、社会人としてのビジネス常識を習得することを目的とする。	1・2	30	1	○		△	○		○		
		○	ビジネス文書	ビジネス文書の基本マナー、文書作成のポイントを習得することを目的とする。	1・2	30	1	○		△	○		○		
		○	ビジネス計算実務	業務効率の向上を図るために、Ｅｘｃｅｌの便利な機能を習得することを目的とする。	1・2	30	1	○		△	○		○		
		○	ビジネス分析基礎	データ分析の”実践”に重点を置き、身近に活用できるExcelを使用したデータ分析技能と、分析結果を正確に理解し、応用する能力を身につけます。	1・2	30	1	○		△	○		○		
		○	就職対策講座	「就職活動」をどのように行っていくかを理解し、企業側の目線から、内定を勝ちとる為に必要となる知識や行動などを学ます。	1・2	30	1	○		△	○		○		
		○	MOS Word	ＭＯＳ Excel365＆2019（一般レベル）の内容を中心に学習し、ビジネスパーソンとして必要なExcel運用スキルを習得することを目標とする。	1・2	30	1	△		○	○		○		
		○	MOS Excel	ＭＯＳ試験のＷｏｒｄ365＆2019の内容を学習し、ビジネスパーソンとして必要なWord運用スキルを習得することを目標とする。	1・2	30	1	△		○	○		○		
		○	データサイエンス	ビッグデータ活用によるデータサイエンスに必要となるデータ分析手法の一つである機械学習の基礎を学ぶ。	1・2	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

（工業専門課程　クリエイティブデザイン学科）令和５年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	ディープラーニング概論	ディープラーニングを汎用技術として、その外観と動向、各種ICTサービスやビジネスへ活かす手法を学ぶ	1・2	30	1			○	○		○		
		○	プログラミング実習	ＪＡＶＡの基本文法およびオブジェクト指向に関する知識を身につける。	1・2	60	2			○	○		○		
		○	データベース実習	Ｃ言語の初歩から基礎的な知識を学習し、数多くのサンプルプログラムをコンピュータに打ち込み処理結果の確認を繰り返し行う。	1・2	60	2	△		○	○		○		
		○	ネットワーク実習	ＴＣＰ／ＩＰの基礎的な知識を取得した者を対象にネットワークの調査・設定の実践的な手法を習得する。	1・2	60	2	△		○	○			○	
		○	セキュリティ実習	企業、組織でのサイバーセキュリティ対策ができる人材になるため、必要とされる技能を実習を通して学ぶ。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		色彩学	日常生活の中で重要な役割を持っている色の基本体系理論をテキストや配色カードを使って理解する。	1・2	60	2	○		△	○		○		
	○		デッサン	ものつくりの基礎となる、デッサンの基本から応用を学び、豊かな表現力と構図のとり方を身につけることを目的とする。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		絵画技法	描画技術や知識、アイデアの出し方などについて学ぶ。	1・2	30	1	△		○	○		○		
	○		フィギュアデザイン	フィギュア制作の基礎実習と講義を通して、人体の基本構造と骨格について理解する。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		ものづくり総合	ものづくりの総合的な基礎知識を修め、電子機械の設計開発チームに参加できるレベルに達することを目標とする。	1・2	60	2	△		○	○		○		

授業科目等の概要

（工業専門課程　クリエイティブデザイン学科）令和５年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		実践的商業デザイン	商業デザインを体系的に学びます。仕事・業務というものを疑似体験し、就職後の会社での実務に役立つ講義を行います。	1・2	30	1	△		○	○			○	
	○		メカトロニクス実習	機械工学の知見を深め、電気・電子工学の知識を得て、電子機械の設計開発チームに参加できるレベルに達することを目標とする。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		Ｗｅｂデザイン	Webコンテンツ作成に必要なHTML／CSSの知識を学び、基礎的なHTML／CSSのコーディング技術の習得を目的とする。	1・2	60	2	△		○	○		○		
○			Illustrator Ⅰ	サーティファイ主催Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダードの受験に向けて、イラストレーターの基本的なオペレーションをを習得する。	1	60	2	△		○	○		○		
			Illustrator Ⅱ	サーティファイ主催Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパートの受験を目標とする。	1	60	2	△		○	○		○		
○			Photoshop Ⅰ	Adobe Photoshopを使用し、写真画像の編集方法を実践的に学ぶ。	1	30	1	△		○	○		○		
			Photoshop Ⅱ	サーティファイ主催Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダードの受験に向けた学習を行う。	1	30	1	△		○	○		○		
○			色彩学	日常生活の中で重要な役割を持っている色の基本体系理論をテキストや配色カードを使って理解する。	1	60	2	○		△	○		○		
○			デザイン基礎	デザインの基礎として、いろいろな素材でモックアップモデルを制作する技術や、一連のデザインプロセスを理解する。	1	60	2	△		○	○			○	
	○		Ｗｅｂデザイン Ⅰ	「Webデザイン Ⅰ」で習得した、HTML／CSSの知識を活用し、オリジナルのWebサイトを作成する。	1	30	1	△		○	○		○		

授業科目等の概要

（工業専門課程　クリエイティブデザイン学科）令和５年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ＷｅｂデザインⅡ	WordPressの基本的なオペレーションを習得し、実社会で活用できるスキルを身につける。	1	30	1	△		○	○			○	
	○		Ｗｅｂデザイン応用A	WordPressの基本的なオペレーションを習得し、実社会で活用できるスキルを身につける。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		Ｗｅｂデザイン応用B	WordPressの基本的なオペレーションを習得し、実社会で活用できるスキルを身につける。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		グラフィックデザインA	産学連携やコンテストに参加し、実学実践を学ぶ。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		グラフィックデザインB	産学連携やコンテストに参加し、実学実践を学ぶ。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		グラフィックデザインC	産学連携やコンテストに参加し、実学実践を学ぶ。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		グラフィックデザインD	産学連携やコンテストに参加し、実学実践を学ぶ。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		グラフィックデザイン実習C	産学連携やコンテストに参加し、実学実践を学ぶ。	1・2	30	1	△		○	○		○		
	○		グラフィックデザイン実習D	産学連携やコンテストに参加し、実学実践を学ぶ。	1・2	30	1	△		○	○		○		
	○		商品企画	製品におけるデザインの果たす役割を理解することにより、ものづくりに対して幅広い視点を持って取り組む姿勢の必要性を知る。	1・2	60	2	△		○	○			○	

授業科目等の概要

（工業専門課程　クリエイティブデザイン学科）令和５年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		映像制作・編集実習A	映像の歴史・理論や映像制作方法の（企画・コンテ・撮影・編集・仕上）流れを学び実習を交えてベース形成することを目的とする。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		映像制作・編集実習B	映像の歴史・理論や映像制作方法の（企画・コンテ・撮影・編集・仕上）流れを学び実習を交えてベース形成することを目的とする。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		映像制作・編集実習C	映像の歴史・理論や映像制作方法の（企画・コンテ・撮影・編集・仕上）流れを学び実習を交えてベース形成することを目的とする。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		映像制作・編集実習D	映像の歴史・理論や映像制作方法の（企画・コンテ・撮影・編集・仕上）流れを学び実習を交えてベース形成することを目的とする。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		映像編集Ⅰ	業界標準となる映像編集ソフトAdobe AfterEffects・Premiere等を使用し、映像作品の制作に必要とされる基本技術や能力を養う。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		映像編集Ⅱ	業界標準となる映像編集ソフトAdobe AfterEffects・Premiere等を使用し、映像作品の制作に必要とされる基本技術や能力を養う。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		映像編集Ⅲ	映像編集・合成ソフトAfterEffectsを使い、映像・モーショングラフィックス・ＶＦＸの高度なテクニックを学ぶことにより映像による表現力向上を目指す。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		映像編集Ⅳ	業界標準となる映像編集ソフトAdobe AfterEffects・Premiere等を使用し、映像作品の制作に必要とされる基本技術や能力を養う。	1・2	60	2	△		○	○			○	
	○		CAD実習Ⅰ	実習により、CADを自由に使いこなせるスキルを習得する。	1	60	2	△		○	○		○		
	○		CAD実習Ⅱ	ＣＡＤⅠで習得した３ＤＣＡＤの基礎技術を基に、より複雑なモデリングに対応するスキルを習得する。	1	60	2	△		○	○		○		

授業科目等の概要

（工業専門課程　クリエイティブデザイン学科）令和５年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		CAD実習Ⅲ	ＣＡＤⅡで習得した３ＤＣＡＤ技術を基に、より複雑なモデリングに対応するスキルを習得する。	2	60	2	△		○	○		○		
	○		プロダクトデザインB	ユーザに合わせたコンセプト設定及び、企画開発を行う考え方を習得することを目的とする。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		プロダクトデザインD	ユーザに合わせたコンセプト設定及び、企画開発を行う考え方を習得することを目的とする。	1・2	60	2	△		○	○		○		
	○		プロダクトデザイン企画	ユーザに合わせたコンセプト設定及び、企画開発を行う考え方を習得することを目的とする。	2	60	2	△		○	○		○		
	○		立体造形	応用的なモックアップモデルを制作する基本的な技術を習得する。	1・2	30	1	△		○	○				
○			商業デザインⅠ	実際のデザイン業界で活動している講師とともに、クリエイティブの役職を制作と実践を通して学びます。	1	30	1	△		○	○			○	○
○			商業デザインⅡ	実際のデザイン業界で活動している講師とともに、クリエイティブの役職を制作と実践を通して学びます。	2	30	1	△		○	○			○	○
○			専門科目ゼミⅠ	ICT／デザイン全般について、研究の補佐となる情報共有や、調査／制作等の時間とする。	1	60	2	△		○	○		○		
○			専門科目ゼミⅡ	ICT／デザイン全般について、研究の補佐となる情報共有や、調査／制作等の時間とする。	1	60	2	△		○	○		○		
○			専門科目ゼミⅢ	ICT／デザイン全般について、研究の補佐となる情報共有や、調査／制作等の時間とする。	2	60	2	△		○	○		○		

授業科目等の概要

（工業専門課程　クリエイティブデザイン学科）令和５年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			専門科目ゼミⅣ	ICT／デザイン全般について、研究の補佐となる情報共有や、調査／制作等の時間とする。	2	60	2	△		○	○		○		
○			業界研究Ⅰ	各業界に関係する調査研究を行う。また、企業と連携した関連授業も行う。	1	30	1	△		○	○		○		
○			業界研究Ⅱ	各業界に関係する調査研究を行う。また、企業と連携した関連授業も行う。	2	30	1	△		○	○		○		
○			作品制作実習	各自でテーマを決め、作品を制作する	2	120	4			○	○		○		
○			卒業研究	学生自身が主体的に個々のテーマを決め、自分の力で調査・研究し、自分の力で論文や作品にまとめていく。	2	120	4			○	○		○		
○			特別課外授業	学校行事の出席時間数に応じて単位認定を行う。	1・2		1～3				○	○	○		
合計				６６科目	３３００単位時間（１１０単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。 尚、卒業基準は次の①～③を満たした者。①卒業基準単位数以上を取得した者。 ②必修科目の単位を全て取得した者。③卒業研究の単位を取得した者。	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。